

大野市農業再生協議会（福井県大野市）

組織の概要

- 市、県、JA、農業共済組合、担い手農家、農業委員会などから組織
- 生産振興部会、担い手育成部会、農地利用部会の3つの部会に分かれて事業を担うことにより、専門性を生かした取り組みが進み、高い成果を生み出している。



生産概要

- 大豆の中心的な生産者 合同会社テラル真名川
- 【作付面積】水稲：7.9ha、大麦：13.6ha、大豆：18.0ha（R6年）
- 2年3作の輪作（稲→麦→大豆）、ブロックローテーション実施
- 強い農業・担い手づくり総合支援交付金（R2）、水田麦・大豆産地生産性向上事業（R3）により大豆乾燥調製設備および汎用コンバイン、ドローン等を整備し、大豆の作付面積を拡大。（R2：6.3ha→R4：16.5ha）



【写真】導入した施設・設備

取組のポイント

<土壌分析結果を活用した戦略的な土づくりの実施>

- 土壌分析によって得られた詳細なデータを基盤に、圃場ごとの課題を的確に把握し、最適な改善策を戦略的に展開
- 従来の経験則に頼った施肥や管理から一歩進み、科学的根拠に基づく精度の高い土づくりを実施

<耕うん同時畝立て播種による作業効率化>

- 耕耘・畝立て・播種を一工程で行い、作業時間を短縮
- 土壌水分のばらつきの抑制、播種深度の均一化により出芽率が向上し、初期生育の揃いが改善
- 初期生育が安定したことで後期の生育ムラが減少し、収量性の向上が期待できる圃場に



【写真】耕うん同時畝立て播種の様子

取組成果

<大豆単収の大幅な増加>

- 土壌分析に基づく戦略的な土づくりと、耕うん同時畝立て播種の導入を組み合わせることで実施した結果、圃場環境の改善と初期生育の安定化が進み、単収はR5年の63kg/10aからR6年は211kg/10aと大きく向上
- 基準単収比でも197%となり、取組の効果がうかがえる

大豆単収の増加（kg/10a）

